

株式市場新聞

1 第357号

日経平均株価

3万3706円08銭

▲220円59銭(前日比)

TOPIX

2300.36

▲6.39(前日比)

www.marketpress.jp

2023

6/19

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



猛暑でもレジャー関連

コロナ5類移行で以前の状態

6月下旬から7月に向けては梅雨明けから本格的夏突入を受けて猛暑を強く意識する時期に突入しそうだ。日本気象協会による今年の夏の気温傾向によると7月と8月の気温は東日本と西日本で平年並みか高く、沖縄・奄美で平年より高いとし、猛暑日の頻度が増える可能性があり、厳しい暑さになるとしている。これを受けて株式市場でも猛暑対策関連や夏休みへ向けてのレジャーやインバウンド関連が賑わうと予想される。注目銘柄をピックアップしてみた。

ビールやエアコン需要も

「ごす」動きが多かったが、



7月 日本気象協会では、陸部、東海から沖縄、東海から沖縄の内一所の所で「厳重警戒」ランク、

今年各所で「厳重警戒」ランク。8月は東部や関東甲信の内陸部、東海から沖縄で「厳重警戒」ランクの所が多くなる。昨今の数年間は新型コロナによる自粛で節電をしながら自宅を

今年5類移行でコロナ禍以前の生活状態に戻りつつある。そうした中での今年の猛暑はアウトドア傾向が強まりレジャー関連が恩恵を受けることになろう。猛暑ではビアガーデンなども盛況になりそう。サッポロホールディングス(2501)、アサヒグループホールディングス(2502)、

オリエンタルランド(4661)が運営する東京ディズニーランド・シドニーは7月4日から夏の「濡れ」プログラムの実施を予定しており、今夏は多くの入園者

キリンホールディングス(2503)の大手3社の業務用の回復が期待できよう。多くの観光地でも夏休みに向けて動きが活発化しそうで、オリエンタルランド(4661)が運営

が予想される。そして観光需要の恩恵ではJR東日本(9020)、JR東海(9022)、JR西日本(9021)、JR九州(9142)のJR4社や私鉄各社の恩恵が大きい。ホテルの新設やリニューアルの動きが活発化する中では、業務用エアコンでダイキン工業(6367)や富士通ゼネラル(6755)も注目される。

日経平均の日足チャート





ECLOUDに独自開発の軽量顔認証エンジンを採用すると発表した。顔認証はディープレーニン

ディー・ディー・エス急伸

新サービスに軽量顔認証エンジン

週明け5日、ディー・ディー・エス(3782)が急伸。IISD管理とSSO機能と多要素認証の一元化を新サービス「EV

6月第2週の動意銘柄

グを応用して高速判定を実現、マスク着用による本人認証も可能で、高速で軽快なユーザー体験を提供するとしており、新サービスの利用拡大と収益貢献を期待した買いが向かった。

岩谷産は政府水素投資支援

岩谷産業(8088)は大幅高で年初来高値を更新した。政府は次世代の脱炭

素燃料として有力な水素の供給を増やすため、企業の製造装置や関連素材への投資支援に乗り出すと伝わったことで、水素事業の本格的な拡大が期待された。15年間で官民合わせて15兆円を投じ、水素サプライチェーンを整備。近く関係閣僚会議を開き、6年ぶりに水素基本戦略を改定するという。

アインHD急落し安値

アインホールディングス(9627)が急落、年初来安値を更新した。24年4月期は連結営業利益で前期比2・1%減の156億6300万円と減益予想であることが嫌気された。原材料や燃料価格の高騰、システム投資や人的資本経営推進のためコスト増を見込む。

アインホールディングス(9627)が急落、年初来安値を更新した。24年4月期は連結営業利益で前期比2・1%減の156億6300万円と減益予想であることが嫌気された。原材料や燃料価格の高騰、システム投資や人的資本経営推進のためコスト増を見込む。

立花エレ資本、株価意識

6日、立花エレテック(8159)が4連騰、年初来高値を更新した。自己株式取得枠の設定を発表、上限100万株(発行済株式総数に対する割合4・0%)または30億円

間で300万株(発行済株式数の12%)の自己株式を取得する。JNSがストップ高 JNSホールディングス(3627)がストップ高。子会社のネオスがAIチャットボットサービス「OfficiceBot」でMicrosoft社の「Azure Open AI Service

Fフーズ75%営業増益

ファーマフーズ(2929)が3連騰。23年7月期の第3四半期累計決算は連結売上高で525億3300万円8前年同期比19・3%増、営業利益で16億3

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に10週続伸。日経平均は前の週から1440円上昇しています。FOMCを前に金融政策への楽観ムードが広がり米国株が堅調に推移した流れを受け、上げ足を加速しました。週明け3日、1400円台乗から、前場で上値を伸ばす。株高から日銀緩返し、年初を終わりました。ザイズ指数は週高で、週間でも今週は重要イなりませんが、下れた投資家が入れてくるでしょう。下値は堅く全般底上げの動きが本格化する。と考えられ、新興グロース株に資金が向かいそうです。

全般底上げの動き本格化



花咲翁

ice」との連携を開始したと発表した。一層強化されたセキュリティのもと、組織固有の情報を安心してチャットボットに取り込み、利用できる。ファーマフーズ(2929)が3連騰。23年7月期の第3四半期累計決算は連結売上高で525億3300万円8前年同期比19・3%増、営業利益で16億3

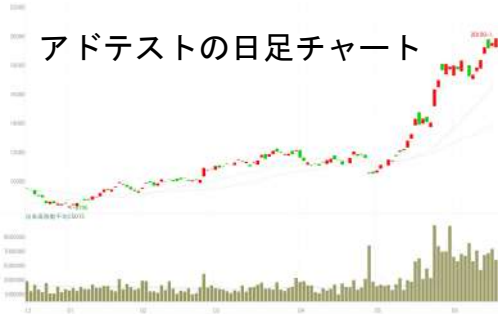
400万円(同75・4%増)となった。新製品の「DRcu1a」シリーズの薬用ホワイトニングジェルが好調を維持。

クミアイ化上方修正 7日、クミアイ化学工業(4996)が大幅に5日続伸。

23年10月期業績予想について、連結売上高で1679億円から1690億円(前期比16・3%増)へ、営業利益で145億円から171億円(同34・9%増)へ、上方修正した。海外向けの販売が好調に推移した。

半導体軒並み下落

市況底入れ後退し高値警戒



アドテストの日足チャート

7日、アドバンテ
スト(6857)、
レーザータック(6
920)、東京エレ
クトロン(8035)
など半導体株が軒並
み下落。台湾TSM
Cの今期設備投資が
想定レンジ下限近く
になる見込みと伝わ
ったほか、世界半導
体市場統計が23年
の半導体市場が前年
比10・3%減にな
ると発表、従来予想
(4・1%減)から
下方修正するなど市
況底入れ期待が後退

00万円(同8・8
00万円から35億900
00万円(前期比6・3%増)へ、営業利
益で29億4000

巴工業はストップ高

機能材好調で今期上方修正

8日、
巴工業
(630
9)がス
トップ高
23年1
0月の
業績予想
について、
連結売上
高で47
3億80
00万円
から48
4億60
00万円

増加した。
行ったこと
成長に必要
が嫌気され
黒字)とな
同期2400
00万円の
体営業損益
00万円の
決算を公表
月)決算を
第四半期(2
24年1月期
年初来安値
(7064)が急
落、

8日、
巴工業
(630
9)がス
トップ高
23年1
0月の
業績予想
について、
連結売上
高で47
3億80
00万円
から48
4億60
00万円
の赤字(前
年同期24
00万円の
赤字)とな
ったこと
が嫌気され
た。事業
成長に必要
な投資を
行ったこと
で費用が
増加した。

岩谷産業(808
8)が大幅に続伸し

水素関連買い広がる

水素関連買いが広がっている。米国市場でS
OX指数は上昇した
が、エヌビディアが
下落しており、半導
体関連には高値警戒
感が意識されている。

視された
クヤマは水電解装置
に関する報道が材料
目標準価引上げが支
援になったほか、ト
谷産は外資系証券の
買いが広がった。岩
かけに、関連銘柄に
投資支援報道をきつ
装置や関連素材への
政府による水素製造
(4043)も大幅高。

最高値を更新したほ
か、川崎重工業(7
012)やトクヤマ
も大幅高。

ハウテレビジョン赤字

ハウテレビジョン

ハウテレビジョン(7064)が急落、年初来安値を更新した。24年1月期の第四半期(2月〜4月)決算を発表、単体営業損益で5000万円の赤字(前年同期2400万円の赤字)となったことが嫌気された。事業成長に必要な投資を行ったことで費用が増加した。

松井証券

今こそ始めるデイトレード 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら
marketpress.jpのバナーをクリック

エーザイの日足チャート



エーザイ大幅高で新値

レカネマブ完全承認示唆と伝わる

8日、エーザイ(4523)が大幅高で年初来高値を更新した。米バ

イオジェンと共同開発したアルツハイマー病治療薬「レカネマブ」がFDAに近く承認される可能性が高いことが示唆されたと伝わった。承認されればメデイケアの対象になることから、米国の

での年間売上は20億ドルを超える可能性がある」とされてお

メデイアス大幅増額

週末9日、メデイアホールディングス(3154)が急伸、年初来高値を更新した。23年6月期の連結業績予想について、営業利益を13億円から20億円(前期比11.8%減)に大幅に上方修正、年間配当を18円から22円に引き上げた。医療機器販売への半導体不足の影響が解消されつつあり、コロナ感染者数減少に伴い症例数の回復、新規症例の獲得も想定以上に進んでいる。

トラスOP営業赤字

トラス・オン・プロダクト(6696)が急落。24年1月期の第1四半期決算は連結営業損益で1900万円の赤字(前年同期280

0万円の黒字)となった。受注型Product事業で前期の既存顧客からのSTB大型受注案件の反動で前年同四半期比で売上高は減少となっている。

ピアズはメタバースで提携

ピアズ(7066)が急反発。VTuberを活用したメタバース空間集客などでShinwa Wise Holdings(2437)の完全子会社Edoversと業務提携すると発表した。江戸をモチーフとしたメタバース空間への集客支援、企画コンサルティング、デジタルツインのマーケティングなどが目的で、新サービスのコンテンツの企画・開発を進めるとしている。



高野恭壽の
株式情報 **これでどや!!**

株式セミナー開催決定!

日程、講演内容は近日公開



お問い合わせは

info@marketpress.jp まで!

HEROZストップ高

ウイルズとAIで提携

週明け12日、HEROZ(4382)がストップ高、年初来高値を更新した。ウイルズ(4482)との業務提携を発表した。ウイルズの「IRInavi」にHEROZが開発する「企業の経営診断AI(仮称)」の実装を図り、上場企業が「企業の経営診断AI(仮称)」を利用することで自発的な企業



行動の改善を促す。海運は下落ストップ

日本郵船(9101)、商船三井(9104)、川崎汽船(9107)の大手海運株が安い。業種別下落率で海運がトップ。コンテナ船事業持分法適用関連会社WOCENNETWORK(ONE)

トヨタ全固体電池EV

13日、トヨタ自動車(7203)が大幅延伸、年初来高値を更新した。2027年にも次世代電池の本命とされる「全固体電池」を搭載したEVを投入すると伝わった。10分以下の充電で約

1200キロメートルを走行でき、航続距離は現在のEVの2.4倍。弱点だった電池の寿命を伸ばし量産化に向けた技術開発を急ぐ。実用化すれば、EV市場の勢力図を塗り替える可能性があるという。SBGは事業模索ソフトバンクグループ(9984)が

大幅高で新値。対話式AI「ChatGPT」を開発した米OpenAIのサム・アルトマンCEOが孫正義社長と面会、共同で事業を模索していることを明らかにしたこと。アルトマンCEOは「協議はまだ始まったばかりだが、一緒に何が出来るかを検討しているところ。

彼とは長らくの友人だ」と話したという。学情(2301)が急反落。23年10月期の業績予想について、営業利益で21億7300万円から22億1000万円(前期比36.3%増)へ上方修正したが材料出尽くしの動き。「Re就活」の「あさがくナビ」のWebメディア商品が伸長し売上構成比率が上昇することで利益率が高まった。

14日、インフォネット(444)がストップ高。Google Analytics 4型Webサイトアクセス分析ツールに機能を充実させたバージョンアップを行い、リリースすることが引き続き注目された。設定ページの分析から生成AIとの連携による設定ページの閲覧数やページの改善案や対策案を把握でき、AI関連として人気を集めた。

の配当金を受け取るに発表したが、郵船で約7億5500万米ドル(前期約9億7000万米ドル)、商船三井と川崎汽船約6億1600万米ドル(同約7億9100万米ドル)と減少する見込み。ブレインズ黒字浮上ブレインズテクノロジ(4075)がストップ高。23年7月期第3四半期累計単体決算は、営業損益8400万円

転ばぬ先のテクニカル

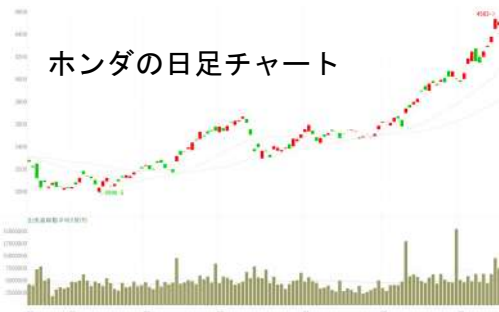
日経平均10週続伸

先週の東京株式市場は10週続伸となりました。前週の週足ローソク足が十字足となったことや7日に陰線包み足を形成したことで天井示唆かと思われましたが、13日に陰線包み足を否定したことで上げが加速しました。

投資部門別売買動向では海外勢が11週連続の買い越しとなり、この間の買い越し額は現物株を5兆5336億円、先物も含めると7兆4965億円もの巨額となっています。この間の急騰により移動平均線は日足・週足・月足すべてが右上がりへ転換しており、崩れる要素は見当たりません。

日本株の新たな時代が幕開けした様相であり、足元はまだ初動段階と見ることが出来ます。上げが急ピッチなだけに、大相場に発展するための調整局面が必要ですが、そうした下落局面では押し目買いが有効ということになりそうです。

日々勇太郎



ホンダ大幅高で新値 小型ビジネスジェット製品化へ

14日、ホンダ(7267)が大幅高で新値追い。新型小型ビジネスジェット機の製品化を決定したと発表した。ホンダエアクラフトカンパニーが21年に発表したコンセプト機をベースにした新型小型ビジネスジェット機で、28年に製品化を目指し、エンジン、アビオニクス、胴体な

ど主要サプライヤーと契約を結んだ。1クラス上のライトジェット機カテゴリーへの参入となり、米国連邦航空局の型式証明取得に向け、開発を進めていく。

公開価格の3.2倍

ABEJAの初値

前日に東証グロ

モイがストップ高

1四半期は75%営業増益

15日、モイ(5031)がストップ高。

24年1月期の第1四半期決算は、営業利益で前年同期比75.4%増の4800万円となったことが好感された。人気キャラクターとのコラボレーションを含むユーザー参加型キャンペーンやオンライン共同視聴体験、さらに同社サービス「ツイキャス」の機能改善と新機能公開を実施したことで、サービスの利用が拡大

市場に新規上場したABEJA(5574)が公開価格1550円の3.2倍の4980円で初値をつけた。DXプラットフォーム「ABEJA Platform」を基盤に企業のDXを総合的に支援する「デジタルプラットフォーム事業を運営する。

MSOL営業益3.6倍

マネジメントソリューションズ(7033)がストップ高。23年10月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益8億100万円(前年同期比3.6倍)と急拡大した。前年度の積極採用で売上高が80億3300万円(同54.3%増)と大きく伸び、社員紹介などエンジェント以外の採用強化により経費も抑制

公開価格の2.3倍

Globeeの初値

1150円で初値が生まれた。同社はオンライン英語学習プラットフォームの開発・運営を行う。

トウキョウベス最終赤字

TOKYO BAS E(3415)がストップ安。24年1月期の第1四半期決算

Globee(5575)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1150円の2.3倍となった。

は連結最終損益100万円の赤字(前年同期7900万円の黒字)となった。中国の一部地域と商業施設からの退店で減損損失を計上した。

WA第1四半期黒字

ダブルエー(7683)がストップ高。24年1月期第1四半期決算は、連結営業利益1億8900万円の黒字(前年同期2億1700万円の赤字)となった。

新型コロナウイルス感染による規制緩和で客足が回復している。

さくらは政府補助

週末16日、さくらインターネット(3778)がストップ高。1経済産業省が国内での生成AI(人工知能)開発の基盤づくりに乗り出す。さくらインターネットが近く整備するスーパーコンピュータの

トラストHD上方修正

トラストホールディングス(3286)

経費の半額を補助すると伝わった。同社は石狩市でのスパコン整備に135億円を投じる計画で、うち68億円を経産省が拠出。AI開発向けで国内最高の計算能力をもち、国内の計算能力は現状の3倍に高まる。

イムラ衆院解散見送り

イムラ(3955)が大幅続落。岸田首相が「今国会での解散は考えていない」と言明、今国会会期中の衆院解散が見送られたことから手じまい売りに値を崩した。不信任決議案を受けて、即日解散を表明する可能性があったことから、総選挙による封筒特需の発生や投票権の発送業務拡大などへの期待から水準を切り上げていた反動安となった。

町田健登の ワールドマーケットナビ



「フィリピン株の落ち穴」について触れていければ

これまでフィリピン株の魅力や、現地の証券口座開設のメリットについて説明してまいりました。一方で、本日の記事では、

いかに“安く” 買うかが大切

フィリピン株の落とし穴

投資家も参入しておらず、マーケットは未成熟です。そのため、決算情報等をまとめた「四季報」のようなものは英語を含めて



フィリピン取引所があるボニファシオ・グローバルシティ

力銘柄に絞ることが大

29日20時〜になります。

1. フィリピン株は情報が手に入りにくい
フィリピン株の上場社数はわずか270社。

存在しておりません。いくら株価が安かったとしても、赤字銘柄に手を出してしまうと、株価は急落、最悪の場合倒産する可能性もゼロではありません。マニラ新聞等をはじめと

場企業か、見極めるのは難しく、いかにこの情報を手にするかがカギになってきます。

弊社には情報の少ないフィリピン株において、自社で毎日決算書を作り、一目でわかる決算短信等もまとめております。



町田健登氏(ライフソフト合同会社代表)のプロフィール
筑波大学卒業後、外資企業営業職を経て人材派遣会社のフィリピン駐在員。現地日系フィリピン金融ホールディングスの役員に就任。31歳で無借金、純資産1億円を達成。2020年、ライフソフト合同会社を立ち上げ独立。現在は、ファイナンシャルプランナーとして活躍するほか、在日フィリピン商工会議所理事、大妻女子大学 大妻マネジメントアカデミー 講師など社会面・教育面でも活躍。「フィリピン投資入門」「フィリピン株を推すこれだけの理由」を出版。アイアンマンレース完走やキリマンジャロ山登頂など、冒険家としても活躍する。

切です。3. カラ売り・信用取引ができない
フィリピン株は空売りをする機能がありません。そのため、株価が下がったときに利益を出す手法は存在せず、基本的に全体相場がプラスにならないければ利益を出すことができません。そのため、「いかに安く買うこと」に注力できるかが大切になってきます。

カラ売りができない分、株価も素直に動き、チャートを読みやすいメリットもあります。

利食つて押し目買い

た場面での押し目買いで対処したい考えです。

日経平均は16日に前場で250円以上調整したあとに後場から戻す動きになりました。

当欄の一貫推奨のソフトバンクグループ(9984)は対話式AI「ChatGPT」を開

15日夕方に岸田総理が国会での解散総選挙を否定したことで選挙時の株高アマリが無くなり、夜間取引に先物主導で下落し、16日の前場はこれに加えて日銀会合前にリスク回避的な利益確定売りがでたようです。その後は大規模緩和の現状維持が伝わりと後場は急速に戻りました。

FOMC、ECB、日銀

野村HD 2月高値視野

会合と一連の金融イベントが通過したことで、目先の不安材料は解消されまし

たが、急ピッチな上昇から一段の上値追いがあ

るにしても日柄調整も必要と見

ています。目先は利益確定売りをしな

がら銘柄を選別して調整し

入れました。

9円を視野に

高値573・

日続伸で2月

604)は4

イングス(8

野村ホールデ

引き続き注目

昇基調維持で

ます。が、上

後にひと押し

で買われた

326円ま

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

購読会員募集中！

<https://marketpress.jp/subscribe/>

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄！！



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!! 花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞 www.marketpress.jp

星野三太郎の株街往来

～日銀の投資手法～

日経平均

がバブル後の高値を付けることに伴って日銀が保有する上場投資信託（ETF）の含み益も話題になっている。

日銀によるETF買いは株価急落時には救世主的な存在になっていったが、2020年の3月に日経平均が1万6358円まで暴落した際には、含み損が出て国会で野党が問題視したことを憶えている。そこから日経平均はほぼ倍になったのだが、現在では含み益が20兆円にもなったと報じられている。

含み益が出たからと言ってマーケットに与える影響を考慮すれば売却は簡単ではなく、出口戦略は今後も折に触れて話題になっていくだろうが、改めて感じることは、株式投資に関しては日銀の手法が理にかなっていったということ。

日銀は株価の下落過程で優良株を安く買って持ち続けてきた。筆者を含めて個人は値動きが良いとかだけの理由で新興銘柄や低位材料株を買ってしまうが、その動きが止まると売却してしまって結局は損をしてしまったことが多々ある。当たり前の投資手法は簡単そう

で以外に難しいが、日銀を少しは見習いたいものだ。



企業レター

「肉フェアbuffe」開催

近鉄GHD

ウエスティン都ホテル京都が期間限定



近鉄グループホールディングス（9041）傘下の近鉄・都ホテルズが運営するウエスティン都ホテル京都（京都市東山区）は7月1日から8月31日までの期間限定で、オールデイナイトイン「肉フェアbuffe」を開催する。

「フェアbuffe」を開催する。夏の厳しさを今年も乗り切るために、おいしくスタミナをつける肉料理の数々を用意。肉料理だけではなく、京都の夏の代名詞である鱧や、太陽を浴びた瑞々しい夏野菜などを季節の美味を使用した和食も楽しめる。ホテルシェフが腕を振るうメニューやライブキッチンのできたてのお料理、夏祭りを思わせるサイダーゼリーやかき氷など遊び心あるラインナップも満載。

料金は平日のランチ大人500円、土・日・祝日700円、ディナー大人7500円、土・日・祝日9000円。

王将フード

24年版お客様感謝キャンペーンを実施

王将フードサービス（9936）は6月23日から「2024年版きょうぎ倶楽部お客様感謝キャンペーン」を実施する。



24年版きょうぎ倶楽部 お客様感謝キャンペーン

各種割引処理後の会計金額税込500円毎にスタンプを1個を押印。集まったスタンプの数に応じて、税込100円割引券や税込250円割引券、会計が毎回5%割引になる「ぎょうぎ倶楽部会員カード」、お箸・レンゲ・小皿セット（数量限定）、スマホケース（数量限定）、タオルセット（数量限定）、「2023年干支入りラーメン鉢」や「光る！ワイヤレス充電器」など数量限定の餃子の王将オリジナル賞品と交換できる。キャンペーンは12月10日まで実施している。

潮流

外人の日本株買い続く

エヌビディアと日経平均は連動



6月13日、プライム市場の時価総額が初めて800兆円を超えた。日経平均は連日でバブル経済崩壊後の高値を更新し、3月末から6月13日まで4977円（17.8%）上昇した。

この間の指数構成銘柄の寄与度をみると、ファーストリテイリングやアドバンテストなど上位10銘柄で上昇幅の50%にあたる2500円ほどを押し上げた。上位30銘柄になると上げ幅の75%ほどを占める。

米国市場でもアップルを含む特定7銘柄の大型ハイテク株の上昇が、今年に入ってから米S&P500種株価指数の上昇分の8割を占める。日米共に特定少数の銘柄の上げが、指数を大きく押し上げている格好だ。

特に米半導体エヌビディアの上昇が日本株に与える影響が大きい。オープンAIが開発した「ChatGPT」は世界中で生成AIの開発を進めており、それが半導体需要の拡大に繋がっている。つまり、エヌビディアの上昇が続く限り日本株の上昇も続くことになる。

一方、バンク・オブ・アメリカが実施した6月の機関投資家調査では、米国の投資家心理は依然として弱気に傾いており、86%の投資家が今後1年間に世界景気が後退局面入りすると予想している。

平田機工の日足チャート



景気後退の開始時期については、2023年10～12月期

や24年1～3月期に後ずれするとの見方が増えた。

弱気の背景には米連邦準備理事会（FRB）による金融引き締めが6月以降も続くと見ているからだ。これを裏付けるように、米連邦準備理事会（FRB）は1

4日の連邦公開市場委員会（FOMC）で、政策金利に当たるフェデラルファンド（FF）金利を5.0～5.25%で据え置いた。

据え置きは11会合ぶり。併せて公表した経済見通しでは、ドットチャートの中央値が0.5%上昇し、年内2回の追加利上げが示唆された。機関投資家は株式において持ち高が最も集中している取引は首位が大型IT株の買いで55%だった。中国株の売りは13%、日本株の買いは8%と上位だった。米国株を見るとハイテク銘柄の多いナスダック総合指数は今年から右肩上がりで上昇しているが、ダウ平均はボックスでの動きとなっている。

外国人の日本株買いが続いている。6月第1週も海外投資家が現物と先物の合計で1兆4170億円買い越した。

潮流銘柄は平田機工（6258）、三菱フィナンシャル・グループ（8306）、シグマ光機（7713）。



岡山憲史氏（株式会社マーカーケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初

「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年の資産運用コンテスト

持ち高は大型IT株に集中



敬腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

約1440円高と10週連続高、10週連続陽線となった。これは歴代4位の上昇になる。海外投資家は11週連続買い越し、この期間現



日銀会合も無事通過(日本銀行本店)

物株で5兆5342億円、先物と合わせると7兆3900億円買い越した。この間の上昇幅は約6000円強、買い手も短期筋のヘッジファンドから年金などの中長期筋に主体が変わってきており息の長い上昇相場となつてい

大相場の証! 10週連続高

しりりの無い真空地帯

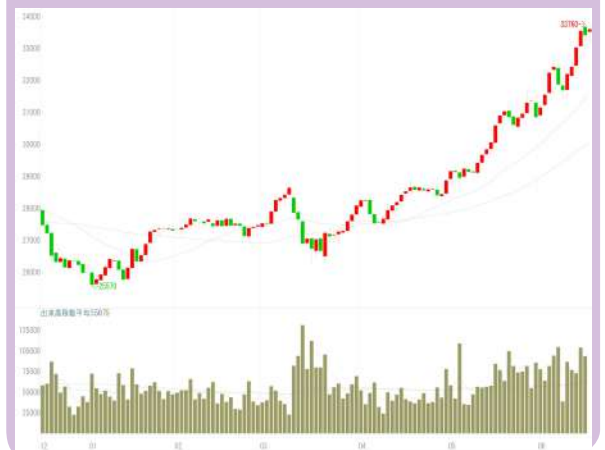
先週は米FOMCや日銀金融政策決定会合など注目されたイベントがあったが、市場の想定範囲内という事で日中の振れ幅は大きかったが、相場のトレンドは変わらなかつた。過去の例からみると10週連続高になった時はその後2〜3週間上昇するパターンが多いことから今後も確りした展開は期待できよう。だが、チャートの節目ではふるい落としも入りそうだが、先週も200日移動平均線(2万8048円)の20%上方乖離に近づく一旦売りが



NYダウの週足チャート

また、相場はボ

日経225先物日足チャート



リンジャーバンドの+2σ(3万3734円)を意識した展開が続いており、過度の達成感が出ていないが、急騰し+3σ(3万4837円)に近づく一気に達成感が漂うため注意は必要である。現在騰落レシオは110%、RSIは74%、過度の過熱感が出ていない。33年ぶりの高値ゾーンというこはしこりの無い真空地帯である。少しの買いで上昇しやすくなっている。ボリンジャーバンドの+2σを大きく上回ってくれば売りで、押し目は買いで対応したい。今週のレンジは3万3100円〜3万4300円を想定する。(ハチロク)

3万3200円割れまで売
られる場面があったが、後
場から再び上昇基
調に転じ、3万3
706円08銭と
高値更新で引けた。
B F O M C と E C
6日の日銀金融政
策決定会合まで日
米欧で金融イベン
トが相次いだ。通
総じて事前予想ど
り内容となつた。
岸田首相が解散の
選挙を匂わしたこ
とから「選挙時

理屈抜きで強い

3万4000円が視野

その後、週
末16日に
売られ、週
初めは3万
3200円割
れまで売ら
れる場面が
あったが、
後場から再
び上昇基調
に転じ、3
万3706円
08銭と高
値更新で引
けた。

0円も一気
に抜けるの
かも知れな
い。

6月第3週の東京市場は14日、5日までのナスダック指数(9984)やホンダ(7267)、27日に日産自動車(7201)など主要企業が続々と株主総会を迎え、個別で話題になる可能性がある。本来ならスピード調整がほしいところだが、これまでの常識が通用しない動きで、海外投資家の買いが広がっているという事だろう。

株高が国内外の投資家の買いを誘っていたが、15日夕刻には記者会見を開いて、解散選挙を否定したこと。先物で急速に値を消す場面もあった。しかしながら1日にソフトバンクグループ(8035)、21日(9984)やホンダ(7267)、27日に日産自動車(7201)など主要企業が続々と株主総会を迎え、個別で話題になる可能性がある。本来ならスピード調整がほしいところだが、これまでの常識が通用しない動きで、海外投資家の買いが広がっているという事だろう。

相場見通し

記者の視点

当面のスケジュール

- ・19日 5月首都圏新規マンション発売
休場:米国(ジュンティーンズ)
- ・20日 米5月住宅着工件数
- ・21日 4月27・28日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
5月訪日外客数
パウエルFRB議長下院金融委員会で証言
- ・22日 端午節(~23日)休場:中国、台湾(~23日)、香港
英金融政策委員会
米1-3月期経常収支
パウエルFRB議長米上院で議会証言
米印首脳会談(ワシントン)
- ・23日 5月消費者物
5月全国百貨店売上高
6月HCOBユーロ圏製造業PMI
米6月S&Pグローバル米国製造業PMI
- ・26日 6月15・16日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
5月企業向けサービス価格指数
独6月Ifo景況感指数
- ・27日 米5月耐久財受注
米6月CB消費者信頼感指数
- ・28日 FRB、年次米銀行ストレステスト結果発表
- ・29日 5月商業動態統計/6月消費動向調査
米1-3月期GDP確定値
- ・30日 5月失業率・有効求人倍率
6月東京都区部消費者物価
5月鉱工業生産
中国6月コンポジットPMI、中国6月製造業PMI、中国6月非製造業PMI
米5月個人所得・個人支出

編集後記

日経平均は連騰記録を歴
代4位タイの10週に伸ば
し、上昇幅は6000円強
に達した。買い主体は海外
の中長期マネーで海外投資
家が11週連続買い越し。
アベノミクス相場初期の1
8週連続にはおよばないが、
買越額合計は約5兆500
0億円と当時に迫る。半導
体を中心に主力株が大きく
水準を切り上げ、トヨタな
ど超大型株が小型株のよう
に値を飛ばす場面もあった。
常識を覆す強い相場で、
常識を覆す強い相場で、
なお騰勢に衰えは見られな
い。業績に問題がない出遅
株なら目をつぶって買いに
いくべきだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。